

平成28年度全国学力・学習状況調査結果

平成28年4月に中学3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査結果の概要をお知らせします。2教科とも本校は全国や神奈川県、横浜市の平均正答率を下回る状況でした。

<教科別学習状況調査結果> 「平均正答率 (%)」

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
日野南中学校	73.7	64.4	60.4	43.9
横浜市	76.0	68.0	63.0	46.0
神奈川県	75.4	67.0	61.9	44.3
全国	75.6	66.5	62.2	44.1

<全国の正答率と比較して結果に特徴のある問題> (日野南中学校)

国語 A (知識)

全国よりも4ポイント以上上回った問題・・・3問

- 資料集を活用するときの留意点を説明したものとして、適切なものを選択することができる。
- 漢和辞典の「意味」の中から適切なものを選択することができる。
- 文字の形や大きさ、配列に注意して書くことができる。

全国よりも4ポイント以上下回った問題・・・9問

- 伝えたい事柄を相手に効果的に伝わるように書く。
- 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書く。
- 文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える。
- 文章の構成や展開について自分の考えをもつ。
- 話の展開などに注意して聞き、自分の考えと比較する。
- 文脈に即して感じを正しく読む。(「封筒」「報われた」は全国平均を上回ったが、「敬う」に対する理解度に課題が残った。)
- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う。

国語 B (活用)

全国よりも上回った問題・・・4問

- 文章の中心的な部分と付加的な部分とを読み分け、要旨を捉えることができる。
- 文章の構成や表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことができる。
- 文章の展開に即して内容を理解することができる。
- 本や文章などから必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを書くことができる。

全国よりも下回った問題・・・5問

- 目的に応じて必要な情報を読み取る。
- 文章の構成を捉える。
- 目的に応じて文章を要約する。
- 課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考える。
- 目的に応じて必要な情報を読み取る。

数学 A (知識)

全国よりも10ポイント以上上回った問題・・・2問

- 分数と小数の乗法の計算ができる。
- 自然数の意味を理解している。

全国よりも10ポイント以上下回った問題・・・3問

- 空間における直線と直線の位置関係(辺と辺とがねじれの位置にあること)を理解している。
- 反比例のグラフ上の点の座標から、 x と y の関係を式で表すことができる。
- 資料を整理した表から最頻値を読み取ることができる。

数学 B (活用)

全国よりも6ポイント以上上回った問題・・・2問

- 筋道を立てて考え、証明することができる。
- 付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、証明することができる。

全国よりも6ポイント以上下回った問題・・・2問

- 与えられた情報から必要な情報を選択し、数学的に証明することができる。
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる。

<生活習慣・学習習慣（生徒質問紙結果より）>

日野南中3年生と、全国と比較して特徴的な項目を挙げると次のようになります。

- ・友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意な生徒が多い。
- ・テレビ、テレビゲーム、携帯電話・スマートフォンでの通話、メール、インターネットをやっている生徒の割合が多い。
- ・計画を立て、授業以外に平日、土日祝日を問わず、1日あたり3時間以上勉強する生徒が多く、予習、復習ともに学習している生徒の割合が多い。
- ・学習塾に通っている生徒が非常に多く、学校の勉強より進んだ内容や難しい内容を勉強している生徒の割合が多い。
- ・学校へ行くことが楽しいと思っている生徒が多い。
- ・人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒が多く、自分なりに何ができるか考えている。
- ・国語の勉強は大事で、将来、社会に出たときに役立つと思っている生徒が多く、文章で書く問題を最後まで解答を書こうと努力していたが、400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことに苦手意識が強いようである。
- ・数学の勉強は大事で、将来、社会に出たときに役立つと考えている生徒が多く、数学ができるようになりたいと思っている生徒が多い。解き方がわからない問題でも諦めずにいろいろな方法を考え、最後まで解答を書こうと努力していた。

生活習慣・学習習慣(生徒質問紙結果より)の考察

現状通り朝食をきちんととり、睡眠時間や学習時間はしっかりと確保し続けてほしいです。また、テレビ、テレビゲーム、携帯電話・スマートフォンでの通話、メール、インターネットの時間を減らし、読書への関心を持ってほしいと思います。学校で友達と会うことが楽しく、好きな授業もあるようです。学習への意識は非常に高いので、このまま学習意識を維持できるように、支援していきます。家庭ともより密に連携をとりながら、協力し、魅力ある学校づくりに努めます。

参 考 <生活習慣と学力との相関（クロス集計）より>

調査が始まった平成19年度から平成28年度への経年変化

○教科に関する調査結果との相関（正答率）

- ・家で学校の授業の予習をしている生徒の正答率は70%。していない生徒より7ポイント高くなっている。
- ・家で学校の授業の復習をしている生徒の正答率は68%。していない生徒より6ポイント高くなっている。
- ・自分にはよいところがあると思う生徒の正答率は66%。思わない生徒より6ポイント高くなっている。
- ・これまでの授業で、課題に対し、自ら考え、自分から取り組んできた生徒の正答率は71%。していない生徒より17ポイント高くなっている。
- ・これまでの授業で、自分の考えを発表する機会では、工夫して発表してきた生徒の正答率は70%。していない生徒より14ポイント高くなっている。

<調査結果から考えられる授業改善の視点>

- ・基礎的な知識及び技能を身に付けるとともに、知識及び技能を活用する授業づくり。
- ・授業の中で、自分の考えをしっかりとち、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表をする機会を設ける。
- ・基礎的な知識及び技能を確実に身に付けるために、家庭・地域と連携した学習習慣の定着に向けた取組の推進。
(横浜市教育委員会 指導企画課より)